

- 1 教育事業名 「とかしきボランティアスクール」
- 2 期 日 平成24年 5月19日(土)～20日(日) 1泊2日
- 3 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 4 募集定員 30名程度
- 5 参加人数 38名
- 6 参加者内訳 高校生7名、大学生29名、社会人2名
(男性14名、女性24名)(県内38名)
- 7 講師
 - ・柳敏晴氏(名桜大学人間健康学部教授)
講義「青少年教育の理解」
 - ・和田太志氏(NPO 沖縄ウォーターパトロールシステム理事長)
中島和美氏(NPO 沖縄ウォーターパトロールシステム)
実習「救命救急法」
 - ・相澤敬二(国立沖縄青少年交流の家主任企画指導専門職)
講義「青少年教育施設の現状と運営」

8 実施プログラム

5月19日(土)

		8:00	9:00	10:15	10:30	12:00	13:00		16:30	19:00	20:30	21:00	23:00	
	集合	出港	移動	開講式	「青少年教育の理解」	昼食	活動スキル			「ボランティア活動の意義」	「ボランティア活動の理解」	灯かりの時間	入浴 休憩	(テント) 就寝
救命救急法 テント設営							炊飯活動・夕食							

5月20日(日)

	6:00	7:00	7:30	9:00		12:00	13:15	15:00	15:30	16:15	17:30	18:15	
テント底上 起床洗面	つどい	朝食	活動スキル			昼食	「青少年教育施設の現状と運営」	清掃	ふりかえり	閉講式	移動	出港	解散
			テント撤収 海洋研修 クラフト										

9 事業の様子



「青少年教育の理解」仲間づくり



「救命救急法」CPR訓練



「ボランティア活動の意義」炊飯



「海洋研修」プログラム体験



「海洋研修」レスキュートレーニング



「青少年教育施設の現状と運営」

10 参加者の声

- ・人を動かすにはまず自分が自立しないといけないが、このプログラムに参加することで自立できたと思う。
- ・第一に人との出逢いに感動した。仲間とボランティアすることが楽しみになった。
- ・各大学や色々なところから集まってきて、一緒にボランティアのことを考えるというのは、お互い刺激にもなるし、とてもよいと感じた。
- ・1泊2日で参加しやすく、充実していた。
- ・ボランティアについて深く考えさせられたし、それ以外でも心に残る助言がたくさんあった。

11 担当者所見

本事業は、これからボランティア活動を始め方を対象にボランティア活動への理解を深め、ボランティアとしての活動に向けた期待と意欲を高めるとともに、必要な基礎的知識・技能を習得させることをねらいとして実施した。

週末の1泊2日開催にしたことで、前年度より多くの参加があった。ボランティア活動を行うにあたって必要な知識・技術を体得し、「青少年教育施設の現状と運営」で事業の企画を体験することで、7月のボランティア自主企画事業への視点づくりとしたが、積極的に企画活動を行っていた様子から、今後のボランティア活動への期待が感じられた。リーダーとして参加した先輩ボランティアからも多くのことを学んだ様子である。

天候不良のため、テント設営、海洋研修の一部などプログラムを変更したが、そのことが参加者へのより鮮明な記憶や経験となった様子である。